

事例：No. 5

低コストで効率的な素材生産を行っている林業事業体の活動事例

都道府県名及び担当部署名： 山形県 置賜総合支庁 森林整備課

担当者名： 専門林業普及指導員 黒田 誠一

1. 林業事業体名 西置賜ふるさと森林組合

2. 林業事業体の概要

①年間素材生産量 2,797 m³ (うち 間伐の占める割合10%程度)

②生産する主な樹種 スギ及び広葉樹 (割合は 80:20)

③素材生産に関わる作業員数 4名 (1セット概ね4名で常に1セットで作業)
平成18年度までは8名 (1セット概ね4名で2セットで作業)

3. 活動の特徴

- ・西置賜ふるさと森林組合は、皆伐でのスギ用材を中心に素材生産を行うとともに、豊富な広葉樹資源を活用し、木炭の生産ときのご原木の生産も行っている。
- ・間伐については、定性間伐による切捨て間伐が主である。
- ・平成17年度より合板用として搬出を行っている。
- ・今年度より県では低コスト作業システムの構築・普及に取り組んでおり、森林組合等を対象に研修会を開催している。西置賜ふるさと森林組合では、低コスト作業システムに必要な技術を習得するため、事業体の協力を得ながら職員を研修に参加させ、技術者養成に取り組んでいる。
- ・7月23日から7月27日まで実施された県の低コスト作業システム研修会においては、高知県四万十町 田邊 由喜男氏、林野庁 国有林野部 業務課 小原文悟氏から、低コスト作業システム(低コスト作業路)のポイントについて、直接、指導を受けた。
- ・9月18日から21日まで、広島県で開催された「低コスト作業システム構築事業OJT研修指導者会議」に参加し、低コスト作業路のルート選定技術の習得や施工に関する技術を習得した。
- ・これらの研修を受け、11月に開催された研修会では、講師として、低コスト作業路開設を実演し、参加者を指導している。

4. 高性能林業機械等を活用した作業内容

- ・今回の研修を受け、300mの作業路の開設を行い、間伐1.36haを実施、用材として60m3を搬出している。使用した林業機械等は下記のとおりである。

①素材生産用保有機械

フォワーダ 1台、グラップル 1台、クレーン付きトラック 1台

②今回取り入れた作業システム等

作業路の開設(チェーンソー、バックホウ) → 伐木・造材(チェーンソー) → 集材(グラップル、フォワーダ) → 運搬(トラック)

- ・作業路の開設については、2人1セットで実施。
- ・作業路開設は0.25 m³バックホウを使用。
- ・伐木、造材はチェーンソーを使用。
- ・集材はグラップルで作業路端まで集材。
- ・運材はフォワーダで簡易土場まで運材し、トラックで運搬。

5. 素材生産の低コスト化による成果と可能性

- ・今年度の低コスト作業システムの技術研修を受けて、間伐箇所の作業路開設を行った。作業路の開設延長は300mで、1日当たり約50～60m開設することができた。作業路の開設単価は約1,600円/mで、従来型作業路と比較し、約30%程度のコストで開設することができた。
- ・管内森林所有者からは、路網の整備の要望が多いため、今後、低コスト作業システムによる路網の整備に取り組み、低コスト化を図る計画である。

添付資料：



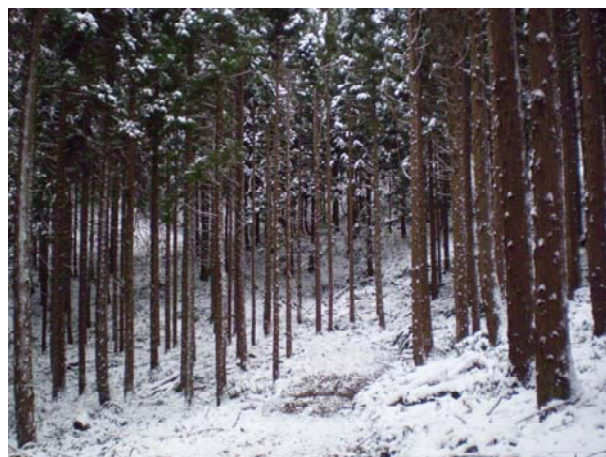
7月の低コスト作業システム研修会



ザウルスロボを使用した研修（広島県）



11月の研修会で講師として指導



完成した低コスト作業路と間伐箇所